

# 研究開発だより Vol.2

「光輝(かがやき)」で資質・能力を働かせ、輝いている子どもたちの様子をお届けいたします!

## 「光輝(かがやき)」の意義って?

新領域「光輝(かがやき)」「光輝(かがやき)視点の保育」は、2018年度から文部科学省より研究開発学校の指定を受け、今年で最後を迎えます。今回は、この研究の意義について伝えたいと思います。

今回は特に、「光輝(かがやき)」という名前について考えたいと思います。教科や領域の名前には、学ぶ内容やその教科領域に携わる人の思いや願いが込められていると言われます。例えば、「生活科」は、子どもの「生活」に根差した教材を取り上げ、「はじめに子どもあり」の発想に基づいて「子どもが『学習の主人公』になり得る教育機会」として、創設されたと言われています。では、「光輝(かがやき)」は、どのような内容で、どのような思いや願いが込められているのでしょうか。

小・中学校の新領域「光輝(かがやき)」は、総合的な学習、道徳、特別活動のすべての時間と、各教科の1/4を上限とする時間を合わせて「光輝(かがやき)」として学習を進めています。

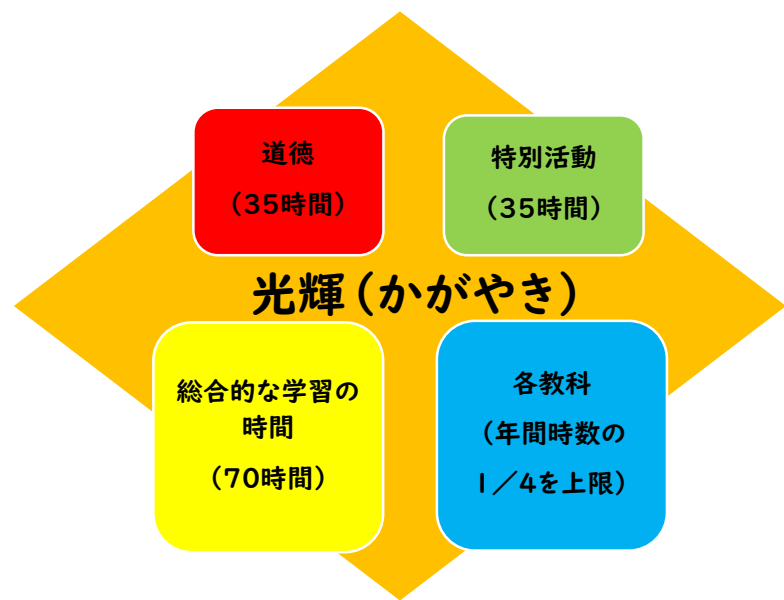


図1 光輝(かがやき)の時間

このような時間を設定することによって、総合的な学習の時間で学ぶべき「探究のサイクル(課題の設定→情報収集→整理分析→まとめ・表現)」や特別活動の重点(自己実現・人間関係形成・社会参画)や道徳的実践力を総合的に育成し、さらに各教科の学びとつながっていくことが可能となるのです。

では、このような内容になぜ「光輝(かがやき)」という名前を付けたのでしょうか。

## 光輝くものとは何なのか?

この研究の課題として、高度に競争的でグローバル化された多様性社会に適応するために求められる力を育成することを目指しています。キーワードとして、「高度に競争的」「グローバル化」「多様性社会」の3つを掲げています。すでに、私たち大人もこの3つの壁にぶつかっているのではないのでしょうか。

競争的であればあるほど(光が当てられれば当てられるほど)自ら光を発することができないものは、影をつくり出します。そのような競争的でグローバル化された社会において必要なことは、自らの個性を光輝かせ、自信をもって、多様性を認め合いながら力強く生きていくことだと考えます。

一人一人が自らの個性を発見し、伸ばしていくことのできる時間が「光輝(かがやき)」の時間であり、一人一人の子どもの光を見つけることが「光輝(かがやき)視点の保育」なのです。このような思いや願いをもち、一人一人の個性が光輝くために12年間の系統性を踏まえた一貫教育カリキュラムを設定し、すべての教員が3つの次元(子どもを見取る枠組み)と育てたい7つの資質・能力を意識して教育実践に励んできました。図2が研究の概要を整理したものです。躍動する感性は、楽しみも喜びも悲しみも怒りもすべて含めた人間らしい豊かな感覚を大切に、学び続ける姿勢を身につけていくこと。レジリエンスは、めまぐるしく変化する社会を生き抜くために、他者との協働、複眼的な思考による粘り強さとしなやかさを育てること。横断的な知識は、学んだことを関連付け、論理的に学びをつなげて問題を解決していく力をつけること。この3つの枠組みで一人一人を見取っていくことによって、子どもたちは、自分の個性を光輝かせることができると信じています。

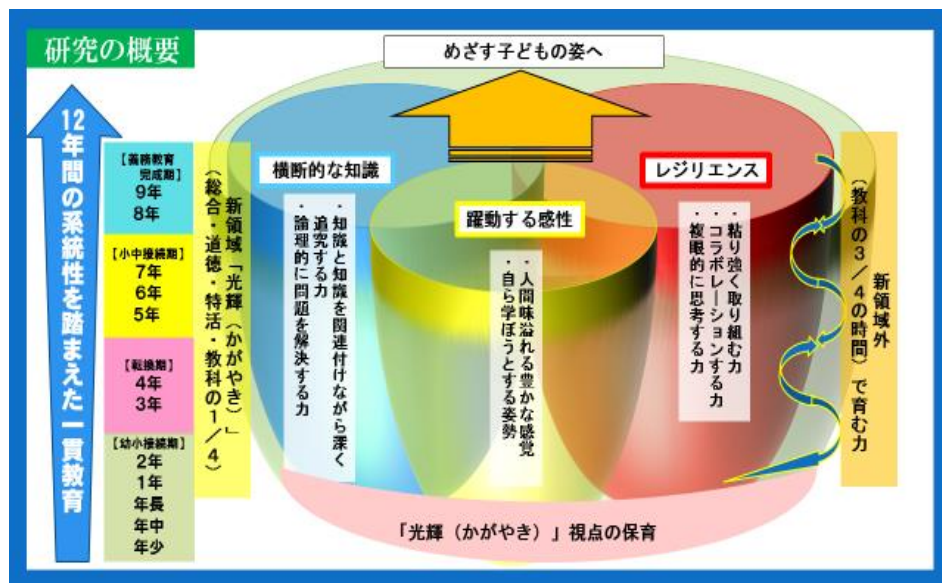


図2 研究の概要(3つの次元と7つの資質・能力)



# 研究開発だより(カラー版)

研究開発だよりをご覧いただきありがとうございます。  
学校園ホームページから、カラー版を閲覧できます。  
よろしければぜひご覧ください。



学校園ホームページ「研究開発だより」URL

[https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu\\_mihara/R5kenpatsudayori](https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_mihara/R5kenpatsudayori)

# 研究開発だよりの アンケートにご協力ください

研究開発だよりをご覧いただきありがとうございます。  
子どもたちのよりよい学びにつなげるため、こちらのアンケートにご協力をお願いいたします。



アンケートフォームURL

<https://forms.gle/LDxPoqih8XvCiyqa9>